

「ふくおか医療福祉関連機器開発・実証ネットワーク」設立趣意書

医療福祉関連機器は、高齢化の進展に伴う疾病の増加や予防・健康増進へのニーズの高まりなどを背景に、今後需要が伸びていくことが見込まれる数少ない成長産業分野であり、医療機関・福祉介護施設の現場ニーズに対応した機器開発の促進は、関連産業の振興とともに医療・介護の質の向上などにもつながるものと考えます。

本県には高い技術力を有するものづくり企業が集積しています。半導体やロボットなど県の成長産業プロジェクトの成果として、医療福祉関連機器の開発に必要なセンサー、微細加工、制御等の技術を有する企業も数多くあります。

また、本県の医療、福祉介護事業所数は全国的に上位を占めるとともに、県内に4つの大学医学部と3つの歯学部又は歯科大学を有するなど、本県は、全国有数の開発・実証フィールドを構築できるポテンシャルを有しています。

しかしながら、本県中小企業が医療福祉関連機器分野へ進出するにあたっては、次のような課題があります。

- ・企業は医療機関や福祉介護施設との接点を持っておらず、現場のニーズをつかめない。また、自社の技術がどのような機器に活用できるかわからない。
- ・機器の実証試験等に協力してもらえらる医療機関・福祉介護施設を見つけられない。
- ・特に医療機器に関しては、薬事法等の特殊な規制が存在する。

このため、福岡県では、ユーザーとなる医療機関・福祉介護施設・大学病院や、機器の開発を行う県内企業及び行政・産業支援機関等が参加する「ふくおか医療福祉関連機器開発・実証ネットワーク」を設立し、関係者のマッチングを図るとともに、薬事法等規制のクリアのための支援を行う体制を構築すること等により、福岡発の医療福祉関連機器開発を推進することとしました。

つきましては、医療福祉関連機器分野への参入に意欲を有する企業の皆様、医療福祉現場のニーズの提供や実証試験に協力していただける医療機関・福祉介護施設等の皆様、関係の自治体、産業支援機関等におかれましては、本事業の趣旨をご理解いただき、是非とも当ネットワークに参加していただきますようお願いいたします。

福岡県知事 小川 洋